

広域化した消防本部が得られた効果

① 住民サービス向上

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局	草加八潮消防局
初動体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・市境の現場への救急車到着時間が短縮 ・火災発生時の初期出動台数 3～5台 → 9台出動に拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・H27.1.16 から指令を統合し直近方式に変更(市境の現場への現場到着時間が短縮) ・火災発生時の初期出動台数 5台 → 8台出動に拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・出動区域の見直しにより市境の救急車到着時間短縮(1分～2.5分) ・火災発生時の初期出動台数 7～10台 → 全区域10台に統一 ・待機部隊の確保(ポンプ) 0～1台→4台に拡充

② 人員配備の充実

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局	草加八潮消防局
現場要員の増	<ul style="list-style-type: none"> ・総務及び指令部門から46人を現場に配置(当時の全職員数:866人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務及び指令部門から42人を現場に配置(当時の全職員数:640人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務及び指令部門から10人を現場に配置(当時の全職員数:329人) ・乗換運用の救急車2隊のうち1隊を専従化
業務の高度化・専門化	<ul style="list-style-type: none"> ・高度救助隊、山岳救助隊、水難救助隊の新設 ・指揮隊の増員(2人→4人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水難救助隊、高度救助隊の新設 ・局内に救急課を設置 ・3消防署に指揮隊を新設し、4隊体制とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度救助隊の新設 ・指揮隊・救助隊の人員を増員した。

③ 消防体制基盤の強化

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局	草加八潮消防局
装備の効率的運用	<ul style="list-style-type: none"> ・重複するはしご車、化学車の見直し 見直し後、経費節減が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NBC部隊の専門化で資機材集約による節減 ・はしご車のうち1台を屈折型に置き換えるなど、多様な機能の車両を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車のうち1台を屈折型に置き換えて機能向上 ・車両配置の見直しによる出動体制の効率化 ・市境解消による出動計画見直しにより、頻繁に発生していた救急隊全隊出動の状況が解消
無線デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・単独整備に比較して5億9千万円の削減(総額17億4千万円→11億5千万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独整備に比較して4億6千万円の削減(総額13億5千万円→8億9千万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独整備と比較して5億2千万円の削減(総額7億9千万円→2億7千万円)

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員年齢構成の平準化 ・構成市の訓練施設(屋外訓練塔など)が利用可能に 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ローテーション活性化 (異動先:4~11課署⇒23課署) ・業務の専従化等による職員モチベーションの向上 ・消防大学校等への研修派遣の機会拡大 ・資機材の共有 ・単独では実施しにくかった庁舎の大規模修繕 ・訓練施設の重点運用による訓練体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員年齢構成の相互補完 ・異動先の増加(5~9課署→15課署) ・構成市の訓練施設が利用可能に
------------	---	--	--